



志中の風

『自主』『友愛』『奉仕』

令和3年10月22日発行

子どもを不幸にする惨(むご)い仕打ち

校長 長元 武彦

三河平定を成し遂げた今川義元の城内に、それまでこの地を治めてきた松平家から、人質として8歳の少年である竹千代(後の徳川家康)が送られてきました。今川義元は家臣に「竹千代には、可能な限りで最も惨い仕打ちをせよ!」と命じました。

「惨い仕打ち」が理解できなかった家臣たちは困り、義元に尋ねました。

「惨い仕打ちとはどんなことですか?」

今川義元は「惨い仕打ちとは、竹千代が不自由を感じず快適に過ごさせることである!暑い時にはうちわで扇いでやれ!寒い時には、暖をとってやれ!」

竹千代に対して「不自由な思いをさせるな」と家臣に命令した義元。実は、竹千代の代わりに全てのことをやってやれば、将来的に竹千代は自分一人では何もできない人間になる!という考えからの指示でした。

しかし、そんな義元のそばに華陽院(けよういん)がいました。華陽院は、家康の祖父である清康と死別した後、いろいろな理由で何人かに嫁いだのですが、全員と死に別れてしまい、行き先に困り、地域一番の実力者である義元を頼って身を寄せていたのです。つまり、期せずして祖母華陽院と孫竹千代が共に暮らすことになったのです。

華陽院は孫竹千代が城内にやってくることを知り、義元に「娘の代わりに孫の面倒を見てやりたい」と申し出ました。義元はこれを了承し、家康は祖母の教育を受けることができました。家康は華陽院から3歳の時生き別れた母の面影を探りつつ、勉強に書道に行儀見習いに精を出すことで、惨い仕打ちには遭わなかったということです。

さて、地区新人総体や2学期中間テストが終わりました。が、中学生には引き続き我慢や努力をさせることで、惨い仕打ちに遭わないよう、部活動や勉強に取り組むよう心がけさせてほしいものです。そして、地域やご家庭におかれましては、安易にゲームやスマホなどの子どもが好きに出来る時間や快適さのみを与え続けたり、子どもが要求することを安易に容認したりすることがないように、即ち、子どもを不幸にする惨い仕打ちをしないよう、引き続き見守りをよろしくお願いいたします(子どものゲームなどのアプリや動画サイトの閲覧は、1日60分以内に留めるようにしましょう。)

吹奏楽部定期演奏会

10月2日(土)に、志布志市文化会館で吹奏楽部の定期演奏会が開催されました。

コロナウイルス感染症対策のため制約がある中での活動でしたが、『音づくりは、人づくり、仲間づくり』、『演奏は日々を映す鏡である』をモットーとして、精一杯活動してきました。

3年生にとっては、この演奏会が志布志中学校での最後の発表の機会となりました。保護者の皆様のご協力もいただき、素晴らしい演奏を披露してくれました。約100人の参観者には、座席間を空け、ソーシャルディスタンスの確保に協力していただき実施することができました。



中間テスト・実力テストの実施

10月20日(水)・21日(木)に、1・2年生は中間テスト、3年生は実力テストが実施されました。

これまでも繰り返しお伝えしてきましたが、テストは「返却された後の復習」がとても大切です。できなかった問題は解き直し、できるようになるまで取り直さる必要があります。そのためには、授業でも解き方について解説しますので、その日のうちに家庭で再度復習させるなどして「確実に定着」させるようご協力ください。

人の記憶力には個人差がありますが、時間が経過すれば徐々に忘れてしまうものです。学校での授業に集中して取り組むことは勿論ですが、家庭での復習を中心とした学習の積み重ねが、学力定着の重要なポイントです。ぜひ、生徒たちの進路の実現に向け、都合のつく範囲で結構ですので、家庭学習の見届けをお願いします。

